

## Highlight in 2010

# 有識者の皆様を招いて 「5つの重要課題」に関する ステークホルダー・ダイアログを開催

2010年12月16日、富士通は、「ステークホルダーとの対話と協力」を重要課題として含むCSR基本方針を公表しました。富士通はこれを機に、今後さまざまなかたちで対話を推進していく計画ですが、その皮切りとして、さまざまな分野の有識者の皆様にお集まりいただき、重要課題の内容についてご意見を頂戴しました。

ダイアログでは、最初に富士通の山本社長がCSR基本方針や重要課題を策定するうえでの考え方を述べました。そして、パブリックリレーションズ本部の山田本部長が重要課題の実践例を紹介した後、重要課題ごとに有識者の皆様から意見を頂戴しました。次に参加者全員で意見交換し、最後に山本社長がCSR経営を推進していく決意を表明しました。

<b>開催日</b>	2010年12月16日(木)
<b>場所</b>	富士通汐留本社
<b>出席者</b>	
<b>有識者の皆様 (敬称略)</b>	枝廣 淳子 岡田 昌治 川原 啓嗣 堀井 紀子
<b>富士通</b>	山本 正己(代表取締役社長) 藤田 正美(取締役執行役員副社長) 高橋 淳久(常務理事 環境本部長(当時)) 池本 守正(FUJITSU Way推進本部長) 山田 悦朗(パブリックリレーションズ本部長) 加藤 公敬(富士通デザイン代表取締役社長)



**枝廣 淳子** (えだひろしゅんこ)  
有限会社イーズ代表、NGOジャパンフォー・サステナビリティ代表。環境を軸に翻訳、執筆、講演、海外への情報発信などを行う。福田・麻生内閣の「地球温暖化問題に関する懇談会」委員、東京大学人工物工学研究センター客員研究員などを務める。主な翻訳書にアル・ゴア著「不都合な真実」など。



**川原 啓嗣** (かわはらけいじ)  
国際ユニバーサルデザイン協議会専務理事。株式会社キッド・ステューディオ代表取締役。国際ユニバーサルデザイン協議会専務理事。名古屋学芸大学大学院教授。国際デザインコンペティションなどの受賞多数。視覚障害者も使える時計「タッチミー」など、ユニバーサルデザインの視点を活かした多数の工業製品の企画開発に携わる。

### 「ICTによる機会と安心の提供」

- 廉価で身近な通信サービスの提供など、ICTを活用したいくつかの途上国支援プロジェクトは素晴らしい。モデル事業で終わらず、長期的な視野で現地の社会的課題の解決につなげてほしい。また、富士通には日本を本拠とするグローバル企業として「社会格差」や「高齢化」といった日本自身の課題を富士通がどのように解決していくのか、より整理して伝えていただけることを期待している。(枝廣氏)
- ICT関連のサービスは、法律や商習慣についての規制が少ない開発途上国では広がりやすい。ICTを活用したソーシャルビジネスなどで、富士通らしいCSRを展開できると思う。(岡田氏)

### 「地球環境保全」

- 環境についてさまざまな取り組みを進めているが、世の中の流れが早く、かつ多くの企業が環境に取り組んでいるなかで、「外から見て共感しやすい活動」を見せるのは年々困



**岡田 昌治** (おかだまさはる)  
九州大学教授。グラミン・クリエイティブラボ@九大エグゼクティブ・ディレクター。通信系事業者入社後、米子会社、インターネットビジネス子会社などにおいて国際法務を中心に幅広く国際ビジネスを担当。2001年よりITベンチャー企業、エンターテインメント企業などの顧問を歴任。



**堀井 紀子** (ほりい きみこ)  
NPO GEWEL前代表理事・アドバイザー。航空会社、外資系乾電池メーカー日本韓国総支配人秘書を経て、外資系化粧品会社に勤務、営業本部長として約700名を率いる。2003年7月、日本女性の活躍を願うGEWEL (Global Enhancement of Women's Executive Leadership) を設立。「Diversity & Inclusion」を実現するため、主として企業のDiversity推進のコンサルティング、社員意識調査、講演活動を行っている。



難になっている。そのためここ数年、世界的に「エコ疲れ」ともいえる閉塞感が広がっており、エコに関心のある人は行動が習慣化しているが、エコから離れつつある人もいる。「地球環境保全」を重要課題としたことを機に、自社の取り組みの意義や成果をステークホルダーに効果的に伝えていくよう工夫を望む。(枝廣氏)

### 「多様性の受容」「人材の育成」

●日本におけるダイバーシティの問題は、女性の活躍推進もワーク・ライフ・バランスも、制度導入以降は足踏み状態が続く企業も多い。そうしたなかで、重要課題に設定いただいたことは高く評価できる。ダイバーシティの推進を通じて企業風土を変革していくためには、企業として、従業員一人ひとりの価値観を認めるという姿勢を示す必要がある。トップ、経営層の日々の言動に期待するとともに、海外の先進企業のように、国際会議などの場での情報発信を通じて

メッセージを打ち出してほしい。(堀井氏)

### 「ステークホルダーとの対話と協力」

- 企業が発展していくためには、顧客、サプライチェーン、従業員といったさまざまな人々との関係性を考慮することが不可欠であり、現在は、企業と多様なステークホルダーが知恵を出し合って社会的課題の解決をめざす時代になっている。もちろん、従業員も重要なステークホルダーで、さまざまな階層の従業員満足度を高めることが、ほかのステークホルダーの満足度を高めることにもなる。富士通が対話を通じてどんな社会的課題の解決に力を入れていくのかが興味深い。(川原氏)
- ソーシャルビジネスは、いわば思いやりを重視したビジネス。江戸の街の循環型社会、近江商人の三方よしなどの日本人のステークホルダーに対する思いやりのDNAを発揮して新しいビジネスをつくってほしい。(岡田氏)

### ダイアログを終えて



代表取締役社長  
山本 正巳

本日は貴重なご意見をありがとうございました。富士通グループはこれまで、古くから日本に根付く「陰徳」をよしとして、事業をCSRの面から語ることはあまり積極的ではありませんでした。しかし、世の中も富士通グループもますますグローバル化していくなかでは、「富士通グループが何に取り組んでいくか」という正確な情報発信を通じてステークホルダーの皆様への説明責任を果たすとともに、グループの求心力を一層高めていかなければいけません。このような考えから、富士通は2010年に「Shaping tomorrow with you」というブランドプロミスを策定しました。これは、富士通グループがお客様をはじめとしたさまざまなステークホルダーの皆様、すなわち「you」とともに次々と新しい「tomorrow」を描き、実現していくことを社会に約束するものです。今回のステークホルダー・ダイアログもその一環であり、今後も皆様のご意見に耳を澄ませて、富士通らしい取り組みを継続的に強化、情報発信していきたいと考えています。